

RSNがギャンブルリング問題の援助職育成講座

各種相談機関職員や医療関係者など約30名が参加

パチンコ・パチスロ遊技に関する依存及び依存関連問題解決の支援を行うことを目的に設立された相談機関、リカバリーサポート・ネットワーク（RSN）は8月27日、横浜市の神奈川県司法書士会館で「事例から学ぶギャンブルリング問題への理解と対応」と題した援助職・サポーター養成講座を開催した。

講師を務めたのは、精神科医でRSN代表の西村直之氏、司法書士の稲村厚氏、依存問題の回復施設、ワンダーポートの中村努施設長の3人。講座には各種相談機関の相談員や医療従事者を中心に多岐に渡る分野から約30名が参加した。RSNは、これまでギャンブルリング問題の理解を深めるセミナーを開催してきたが、養成講座を開いたのは今年6月から。

講座では相談者や対象者の年齢や家族構成、おかれた状況などを細かく設定したモデルケースを提示。グループごとにディスカッションを行うワークショップ形式で行われ、活発な議論が交わされた。

講座のなかで、講師3氏が共

に指摘したのはギャンブルリング問題の背景には様々な要因があり、一つの問題を処理しただけでは根本的な解決な望めないという複雑性。西村氏は「借金問題の解決にあたる司法書士、家族から相談を受けた相談所といったそれぞれの関わりで見えてくるものが違う。自分の専門分野を中心に考えると重要な背景を見逃す危険性がある」と単一的な支援の問題点を指摘し、「自分が相談を受けたのは問題の周辺という意識で見ると、全体像が見えてくる」とした。

司法書士の稲村氏は借金を一旦棚上げし、問題の解決を図る重要性について言及。「債務は結果に過ぎず、原因を抑えなければ再び借金問題が出てくる。放っておけば利子が増えると思われるが、法律家が介入すると元金返済で交渉できる。根本問題の解決前に借金を整理すると、その後は借金ができなくなるため、窃盗などの犯罪行為に繋がる危険性すらある」と語り、根本問題の解決に取り組んだ後、予後段階として債務整理をするのが理想であるとした。

中村施設長は家族や周囲の人が「回復プログラムを受ければ必ず回復する」と考えることの危険性に警鐘を鳴らし「プログラムに合わない人もいるが、家族の思いから無理して通い続けるケースも多い。そうなるとう当事者を追いつめることになる」と注意を促した。

西村代表は今回の養成講座について「様々な分野の人と意見を交換することはギャンブルリング問題に関わる上で重要なこと。だからこそ、相談機関の名称にネットワークという言葉を入れている」とその意義を語っている。



ワンダーポート
中村努氏



稲村厚司法書士



リカバリーサポート・ネットワーク
西村直之代表